

令和 3 年 5 月 15 日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K03582

研究課題名(和文)文化を扱う国際機構の課題 東アジアから見るユネスコ遺産事業

研究課題名(英文)Challenges for international cultural organizations: UNESCO heritage programmes from an East Asian perspective

研究代表者

中野 涼子(Nakano, Ryoko)

金沢大学・法学系・教授

研究者番号：90781063

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：文化を扱う国際機構・ユネスコは、一見、権力政治とは無関係なもののように見える。しかし、歴史認識が外交問題化する現代の国際社会において、特定の歴史的文化物を人類共通の遺産として認定するユネスコ事業も、国際政治の動向と影響を及ぼしあう。本研究では、ユネスコの遺産事業が特定国家の歴史認識に関する利益と結びつくことで、文化を通じた諸国民の間の協力という事業本来の目的が脅かされるという政治化の仕組みを、東アジアの事例を分析して解明する。この研究成果は、7本の英語論文、2本の日本語論文の形で公開された。また、計9回に及ぶ国際学会での報告により、海外の研究にも一定程度のインパクトを与えるものとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

国際関係論の領域において国際機構についての研究は多くあるが、文化を扱うユネスコへの研究者の注目度は低く、その事業の政治性についての批判的考察はほとんどなかった。しかし、ユネスコの文化遺産プログラムを介して関係国間の歴史認識や領土をめぐる紛争が悪化する事態は世界的に散見され、2015年前後の東アジアでは、とくにそうした事例が増加した。このことから、各国の文化・アーカイブを人類共通の遺産として認めるユネスコのプログラムについて考察することは、現代の国際社会を読み解くうえで重要な学術的意義があり、また、今後の日本の文化政策・文化外交について考えるうえで一定程度の示唆を与えるものである。

研究成果の概要(英文)：The United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization (UNESCO) has been largely dismissed by International Relations researchers as a mere cultural organization. Compared to other international organizations, it does not seem an important target of analysis because of its emphasis on culture instead of security and economics. However, UNESCO's projects/programmes occasionally become a battleground of state conflicts particularly in the field of cultural heritage. This research project aims to uncover the hidden links between culture and politics in UNESCO by examining a number of heritage conflicts and controversies in East Asia. The outcome of this research has been published in the form of seven English-written articles and two Japanese-written articles. The principal investigator has also given a presentation at nine international academic conferences. Overall, the research outcome has been well received in English-speaking academia.

研究分野：国際関係論

キーワード：ユネスコ 文化遺産 東アジア 歴史認識 世界の記憶 世界遺産 国際機構 国際政治

## 1. 研究開始当初の背景

国際関係論の領域において国際機構についての研究は多くあるが、文化を扱うユネスコへの研究者の注目度は低く、その事業の政治性についての批判的考察はほとんどなかった。しかし、ユネスコの文化遺産プログラムを介して関係国間の歴史認識や領土をめぐる対立が先鋭化する事態は世界的に散見され、2015年前後の東アジアでは、とくにそうした事例が増加した。このことから、各国の文化・アーカイブを人類にとって重要な遺産として認めるユネスコのプログラムが運用方法やその意義および問題点について考察することに現代的な意義があると考え、この研究を開始した。

## 2. 研究の目的

文化を扱う国際機構・ユネスコは、一見、権力政治とは無関係なもののように見える。しかし、歴史認識が外交問題化する現代の国際社会において、特定の歴史的文化物を人類共通の遺産として認定するユネスコ事業も、国際政治の動向に影響を及ぼしあう。本研究では、ユネスコの遺産事業が特定国家の歴史認識に関する利益と結びつくことで、文化を通じた諸国民の間の協力という事業本来の目的が脅かされるという政治化の仕組みを、東アジアの事例を分析して解明することを目的とする。主権国家を基軸とする国際秩序の中で行動することで何らかの制約を受ける点は、ユネスコのみならず他の多くの国際組織にも共通するものであるため、近年におけるユネスコの問題点を指摘することは、多様化する国際社会における国際機構の限界を照らす新たな視点を提供することでもある。

## 3. 研究の方法

本研究の目的を達成するには、ユネスコと東アジア国際政治という2つの側面からの理論的考察と実証分析が必要であると仮定し、研究を進めた。

まず、ユネスコに関しては、国際関係論の英国学派の考え方を援用する形で、主権国家を軸とする国際秩序の中にユネスコを位置づけ、そのうえで、ユネスコの「世界の記憶」プログラムと世界遺産の制度化の過程や運用状況について調査した。その際、パリのユネスコ本部でのユネスコ職員、および、そこで勤務する日本を含む他国の政府代表部の外交官から聞き取り調査も行うことで、ユネスコの関連文書から読み取ることのできない内部事情についての理解を補足した。また、「世界の記憶」アジア太平洋地域委員会にもオブザーバーとして参加し、ユネスコ職員や専門家から直接意見を伺うことができたことも、プログラムの問題点を精査するうえで大いに役立った。

次に、東アジア国際政治に関しては、通常の文献・資料に基づく歴史認識や文化遺産に関する調査だけでなく、日本、韓国、中国の文化遺産に携わる専門家や研究者、および、政府関係者と意見交換を行った。これにより、それぞれの国や組織の立場、状況、ユネスコや他国に対する見解についてのより正確な知識と情報を得ることができた。こうした実証データを読み解く際には、国家による文化遺産の形成・維持の中核にあるナショナリズムに関連する研究の蓄積を重視することで、ユネスコの遺産プログラムの政治化をアイデンティティの問題として分析する視点を獲得することができた。

## 4. 研究成果

研究成果は、7本の英語論文、および、2本の日本語論文の形で公刊されている。国際的な学術雑誌に掲載された英語論文は、いずれも査読付きであり、(1) 英国学派の「連帯主義」対「多元主義」の構図に照らし合わせてユネスコの「世界の記憶」プログラムにおける日中間の緊張関係の高まりを考察した論文は *Contemporary Politics*、(2) ソフトパワーとの関係でユネスコ遺産事業の政治性について論じた論文は *International Journal of Cultural Diplomacy*、および、*Journal of Contemporary Eastern Asia*、(3) ある記録文書を遺産として認定することを政府に近い特定の団体が「辱め」として受けとめることに光を当てたものは、*ASR: Chiang Mai University Journal of Social Sciences and Humanities*、(4) 文化遺産をめぐる日本の外交政策と政治力学に焦点を置いた論文は、*International Journal of Asian Studies*、および、*Cambridge Review of International Affairs* の中で、出版された。そして、東南アジアにおける戦争の記憶と遺産を扱った共著論文は、書籍、*Exhibiting the Fall* に収められている。日本語では、自らが編者でもある『共生社会の再構築』第III巻において、多文化共生に関する規範が国内でどの程度受け入れられるのかという問題意識の下で、ユネスコの世界遺産、無形文化遺産、世界の記憶というプログラムの発展について分析

した論文を発表した。その予備的考察として、ユネスコで定められた文化遺産についての考え方を国際規範として位置づける論文は、紀要で発表した。

国際学会での報告としては、Pan-European Conference on International Relations、British International Studies Association、Association of Critical Heritage Studies (2018年、2020年)、Asia Association for Global Studies、南洋工科大学（シンガポール）主催の Rethinking History: Singapore and Global History (2019年)、Exhibiting the Fall: Remembering and Representing War and its Aftermath in Asia (2017年)、九州大学主催の International Conference on the Politics of War-related Heritage (2019年)、International Conference on Multicultural Democracy (2018年)と、計9回に及んでいる。これらの研究成果によって、海外研究者との共同研究の機会を複数得ることができた。

なお、2020年度からは、本研究をさらに発展させるものとして、基盤研究C「日本の対ユネスコ文化・外交政策 国際政治と文化遺産の交錯」を開始している。この研究課題は、本研究が注目したユネスコの遺産プログラムから、地域・国家的な文脈へと視点を移して研究を行うことに主眼を置いており、本研究の成果が重要な礎となっている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 7件）

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>Nakano Ryoko   | 4. 巻<br>Online first  |
| 2. 論文標題<br>Japan's demands for reforms of UNESCO's memory of the world: the search for mnemonical security | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>Cambridge Review of International Affairs  | 6. 最初と最後の頁<br>1~18    |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.1080/09557571.2020.1784093   | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）  | 国際共著<br>-             |
| 1. 著者名<br>Nakano Ryoko, Zhu Yujie  | 4. 巻<br>26            |
| 2. 論文標題<br>Heritage as soft power: Japan and China in international politics                               | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>International Journal of Cultural Policy   | 6. 最初と最後の頁<br>869~881 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.1080/10286632.2020.1845322   | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）  | 国際共著<br>該当する          |
| 1. 著者名<br>Nakano Ryoko   | 4. 巻<br>18            |
| 2. 論文標題<br>Mobilizing Meiji Nostalgia and Intentional Forgetting in Japan's World Heritage Promotion       | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>International Journal of Asian Studies   | 6. 最初と最後の頁<br>27~44   |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.1017/S1479591420000467   | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）  | 国際共著<br>-             |
| 1. 著者名<br>Ryoko Nakano   | 4. 巻<br>5(2)          |
| 2. 論文標題<br>The Unintended Consequences of UNESCO's Documentary Heritage Program: Shaming without Naming    | 5. 発行年<br>2019年       |
| 3. 雑誌名<br>ASR: Chiang Mai University Journal of Social Sciences and Humanities                             | 6. 最初と最後の頁<br>99-113  |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.12982/CMUJASR.2018.0006  | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）  | 国際共著<br>-             |

|  |                         |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名<br>Nakano Ryoko   | 4. 巻<br>24              |
| 2. 論文標題<br>A failure of global documentary heritage? UNESCO's 'memory of the world' and heritage dissonance in East Asia | 5. 発行年<br>2018年         |
| 3. 雑誌名<br>Contemporary Politics  | 6. 最初と最後の頁<br>481 ~ 496 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1080/13569775.2018.1482435  | 査読の有無<br>有              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)   | 国際共著<br>-               |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>Nakano Ryoko  | 4. 巻<br>17            |
| 2. 論文標題<br>Heritage Soft Power in East Asia 's Memory Contests: Promoting and Objecting to Dissonant Heritage in UNESCO | 5. 発行年<br>2018年       |
| 3. 雑誌名<br>Journal of Contemporary Eastern Asia  | 6. 最初と最後の頁<br>50 ~ 67 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.17477/jcea.2018.17.1.050   | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)  | 国際共著<br>-             |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>中野涼子                                | 4. 巻<br>60            |
| 2. 論文標題<br>ユネスコ遺産事業に見る規範のフィードバック・ループ          | 5. 発行年<br>2018年       |
| 3. 雑誌名<br>金沢法学                                | 6. 最初と最後の頁<br>109-122 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.24517/00050366 | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)        | 国際共著<br>-             |

〔学会発表〕 計10件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 9件)

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Nakano Ryoko   |
| 2. 発表標題<br>Politics of Nostalgia and Intentional Forgetting in Japan 's Industrial Heritage |
| 3. 学会等名<br>Association of Critical Heritage Studies (国際学会)                                  |
| 4. 発表年<br>2020年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Nakano Ryoko   |
| 2. 発表標題<br>Heritage as a 'Thing' in International Politics: Memory Politics and Ontological Insecurity in East Asia |
| 3. 学会等名<br>International Conference on the Politics of War-related Heritage in Contemporary Asia (招待講演) (国際学会)      |
| 4. 発表年<br>2019年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Nakano Ryoko   |
| 2. 発表標題<br>Japanese imperialism   |
| 3. 学会等名<br>Rethinking History: Singapore and Global History (Singapore) (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2019年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Nakano Ryoko  |
| 2. 発表標題<br>East Asia's Memory Contests in UNESCO Heritage Programmes         |
| 3. 学会等名<br>International Conference on Multicultural Democracy (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2018年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Nakano Ryoko  |
| 2. 発表標題<br>East Asia's Heritage Wars in UNESCO                     |
| 3. 学会等名<br>British International Studies Association (BISA) (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2018年  |

|                                 |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名<br>中野涼子                 |
| 2. 発表標題<br>広義の安全保障問題としての遺産外交と政治 |
| 3. 学会等名<br>国際安全保障学会             |
| 4. 発表年<br>2018年                 |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Nakano Ryoko  |
| 2. 発表標題<br>The Impact of WWII Heritage on Japan's Ontological Security |
| 3. 学会等名<br>Association of Critical Heritage Studies (国際学会)             |
| 4. 発表年<br>2018年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Nakano Ryoko  |
| 2. 発表標題<br>Ontological Insecurity in East Asia's Heritage Wars       |
| 3. 学会等名<br>Pan-European Conference on International Relations (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2018年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Nakano Ryoko   |
| 2. 発表標題<br>Ontological Insecurity and Japan's Struggle with the Internationalization of Memory and Heritage |
| 3. 学会等名<br>Asia Association for Global Studies (国際学会)   |
| 4. 発表年<br>2019年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Kevin Blackburn and Ryoko Nakano  |
| 2. 発表標題<br>Memory of the Japanese Occupation and Nation-Building in Southeast Asia                       |
| 3. 学会等名<br>Exhibiting the Fall: Remembering and Representing War and its Aftermath in Asia (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2017年  |

〔図書〕 計2件

|                                    |                 |
|------------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>大賀哲・中野涼子・松本佐保編           | 4. 発行年<br>2020年 |
| 2. 出版社<br>法律文化社                    | 5. 総ページ数<br>258 |
| 3. 書名<br>共生社会の再構築 第III巻、国際規範の競合と調和 |                 |

|  |                 |
|--|-----------------|
| 1. 著者名<br>Kevin Blackburn and Ryoko Nakano   | 4. 発行年<br>2018年 |
| 2. 出版社<br>National Museum of Singapore   | 5. 総ページ数<br>183 |
| 3. 書名<br>Exhibiting the Fall: Remembering and Representing War and its Aftermath in Asia |                 |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

| 6. 研究組織                   |                       |    |
|---------------------------|-----------------------|----|
| 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号) | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号) | 備考 |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

|         |         |
|---------|---------|
| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|

|         |                                      |  |  |  |
|---------|--------------------------------------|--|--|--|
| シンガポール  | Nanyang Technological University/NIE |  |  |  |
| オーストラリア | Australian National University       |  |  |  |